

【エントリー情報】

自治体名：埼玉県加須市

学校名（自治体でエントリーされる場合は記載不要です）：加須市立加須小学校

ご記入者：高橋恭平

【設問】

貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。（1,500文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

加須市では、GIGA スクール構想における目的を「授業で端末を日常的に活用することで、最適化された学びや創造性を育む学びを実現し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない教育を実現していく」としている。端末の積極的な活用を目指すため、ICT 研究推進校として4つの小・中学校に研究委嘱を行い、実践研究に基づく成果や課題を共有することで、より効果的な活用を図った。

本校では令和3年度より加須市教育委員会から加須市 ICT 活用推進校の指定を受け、「誰もができる『ICT を効果的に活用した授業』を加須市全体に広め、加須市全体の学力向上をめざす」「すべての学校、すべてのクラスで端末を活用することができるようにする」というねらいのもと、授業や教育活動の改善に取り組んできた。本研究においては、算数科において「わかる楽しさを実感させる」ことに焦点をしぼり、基礎基本の定着や主体的に学ぶ児童の育成を重視して進めていく。また、ICT を最大限活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていく。そこで、加須小学校の授業スタイルを今まで以上に確立し、ICT を組み合わせることによって、児童が自ら課題を見つけ、「わかった」「できた」という達成感を味わい、自己肯定感を高めていくような指導方法の工夫改善を行っていく。児童が主体的に学び、わかる楽しさを実感できることによって学力向上につなげたいと考え、このテーマを設定した。

目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。（1,500文字以内）

<校務での活用について>

まずは、校務で活用を進めることを考えた。加須市は Chromebook と Google Workspace

for Education を利用している。クラウドデータを利用していけば、校務での負担軽減を進めることができ、教員の働き方改革につながる。教員の働き方や心身に余裕ができれば、教育や授業での活用を進めることができると考えたからだ。特に Google フォームと Google スプレッドシートを併せて活用することが多い。フォームでアンケートを集め、スプレッドシートで集計・分析などを行ってきた。具体的に言えば、学校評価や読書月間の読書量調査、持久走大会前の自主マラソン周回数調査などである。特に集計の手間が減るので、校内のほかの教員にも好評であった。加須市で行われている「かぞ学び DX」研修で紹介したり、異動した教員から現勤務校でも使いたいという声もあって、活用方法をレクチャーしたこともあった。

<授業での活用>

自力解決の場面でのオクリンクの活用を進めた。具体的なものは後述する。

(3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000 文字以内)

<教員の働き方について>

児童の活動の様子をデータとして残すことで、評価をすることが容易になったことが1つの成果だと感じている。少し前までは、各教科のノートを集め、さらに膨大な量の提出物を紙ベースで集め、評価をつけていた。もちろん本筋ではあるが、相当な量があり、紛失や個人情報の流失の危険性もある。それに比べて、クラウドデータを活用すれば端末1つでいろいろな提出物や作品を収集するとともに、見比べたりすることも容易である。ちょうど通知表の作成を進めていたところなので、非常に役に立っている。

<児童の学び方について>

算数の自力解決で活用を進めてきて一番大きく変わったことは、自分の考えを書くことができる児童が増えたことである。途中でもよいと伝えたところ、苦手な児童もわかるころまで書くことができた。ノートに考えを書いていたときには、わからなければ固まって時間を過ごしている児童も見受けられ、どう働きかけをしたらよいか悩むときもあった。今は、ほぼ全員の児童が「まずやってみる」「わかるころまでやってみる」ということができているので、とてもよい変化であると感じている。

(3-2) ICT 活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500 文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答

令和4年度			令和5年度		
小4	平均正答率	レベル	小5	平均正答率	レベル
埼玉県	63.0	5-B	埼玉県	63.0	6-C
加須市	60.9	5-B	加須市	58.8	5-A
加須小	57.3	5-C	加須小	60.5	6-C
県との差	▼5.7	—	県との差	▼2.5	—
市との差	▼3.6	—	市との差	△1.7	—

昨年度4年生時担任していた、現5年生の令和5年度埼玉県学力・学習状況調査の算数の結果を示している。令和4年度（自分が担任してすぐ4月実施）では、埼玉県や加須市との平均正答率は図のような差があった。オクリンクでの自力解決を1年間進めてきたところ、令和5年度（自分が1年間担任し、進級してすぐ4月実施）では、埼玉県との差が3ポイント以上縮まり、加須市の平均正答率を超えることができた。

お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立った場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1つのエピソードに絞る必要はございません。（2,000文字以内）

【算数の授業における活用】

・自力解決時におけるオクリンクの活用

自力解決の時間には、児童がオクリンクのカードに自分の考えを書いている。それを考える交流の際に、児童から画面共有をかけることでお互いの考えの共通点や相違点について考察している。

○算数が苦手な児童

- ・できるところまで取り組む
- ・配信されたヒントカードを活用して、取り組んでいる
- ・提出BOXに出された提出済みの児童のカードを見てヒントを得ながら取り組んでいる。

○算数が得意な児童

・自力で問題に取り組みながら、配信されたヒントカードも見て、自分の考えに自信をもったり多様な考えがあることを知ったりすることで、さらに自分の考えを伸ばしている。

・見やすいカードや、わかりやすい考えが書いてあるカードについては、既習事項の確認として印刷して、算数コーナーの掲示物として使っている。レイアウトを工夫したり、誰にでも伝わりやすく書いたりすることで、掲示物として選ばれることを楽しみにしている。



<児童が送ってきたカードの実例>



<ヒントとして送っているカードの例>

【クイズ大会での活用】

オクリンクを使って、早押しクイズ大会を行った。

1. オクリンクのカードにクイズ大会の3択問題を児童に作成させる。
⇒学期末や学年末など、学習のまとめの際に作成する。教科書を読んで問題を作るので、学習内容の復習ができる。
2. 3択問題を提出させ、クイズ大会で出題する問題を教師が選ぶ。
3. クイズ大会を行う。
⇒(児童) 3択クイズなので、赤・黄・青のカードを用意する。
(教師) 画面共有機能を使って、問題カードを全体に共有する。
(児童) 画面共有が解かれたら、答えだと思ふ色のカードを素早く配る。
(教師) 提出BOXを開き、カードを児童に公開する。その後、提出順でソート。
(児童・教師) 提出順になる＝早押し(早く解答した順になる)。

<注意点>

- ・問題によって、提出BOXを変えることが必要。早押し(提出順)の判定を正確に出すためには、BOXをその都度変える必要がある。
- ・提出BOXの増設できる個数には上限があるため、それが最大の問題数である。